

2019

せきれい

宝塚野鳥の会会報
Vol 110 AUTUMN



宝塚野鳥の会

せきれい 2019年 秋号

目 次

宝塚野鳥の会趣旨	川合 寛	2
宝塚野鳥の会標語	河中 三朗	2
寄稿		
北海道探鳥記 (2019年6月)	持田 倫子	3
野鳥川柳	武田 玲子	8
三太郎日記 17	彦根 宏道	9
フォトコーナー	山尾文明・持田倫子	15
事務局便り		
行事予定(10月～12月)	片山 忠	17
活動報告(7月～9月)	〃	18
定例探鳥会で見られた野鳥リスト(6月)	編 集 部	19
定例探鳥会案内(10月～12月)	編 集 部	20
会員異動(6月～8月)	片山 忠	20
その他		
野鳥撮影マナー・原稿募集	編 集 部	21
裏表紙によせて	松村 基子	22
表紙画	西村 亘	
裏表紙画	松村 基子	

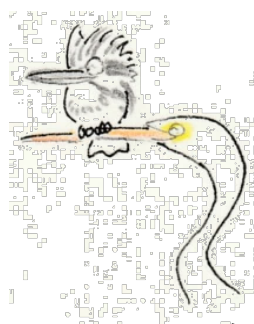


イラスト 久保由紀子さん

野鳥川柳

秋風に野鳥も樹々も衣更え

鳴き声に誘われ森に迷い込む

鳥達も温暖化にはじっと耐え

餌を運ぶ鳥にも劣る人の親

雀の子羽をふるわせ餌をねだる

武田玲子

裏表紙に寄せて

ミサゴ

早朝公園でのラジオ体操で、仲間たちが空を見上げ、鳥が並んで飛んでゆくと指差した、今年初の渡りである。2列にならんで20羽くらいか？

「雁が渡る・・・」と歌いだした。水鳥だろうな。

言葉もないほど暑い夏だったが、季節は必ずめぐってくるよ、と渡り鳥に教えてもらった。

9月は、宝塚野鳥の会は例年のごとく鷹の渡りの観察を山の上の塩尾寺で始める。つづら折りの坂道を探鳥しながら歩くのもだんだん足に自信がなくなって、どうしようかと迷ってしまう。

今年の天候不順の日本で、暑い日を過ごし、渡ってゆくワシタカの無事を「来年も又いらっしやいよ！！」のエールで高い空を行くゴマツブのような彼らに送りたい。

塩尾寺や、甲子園浜でたいてい大きく見えるのは、常駐のミサゴの姿。この辺の山に巣を持っているのか、大きな魚を手〔足？〕に持って飛ぶ姿はやはり雄姿！！

英語ではオスプレイというそうで、米軍のヘリコプタ・型爆撃機の名前になっている。近年日本に配備され、被災地への救援物資の輸送に一役買っている。ホバリングして物資をワシ掴みして飛び立つさまからきているのだろうか、おかげでミサゴは、ワシタカ類の中で近年一番有名になったかもしれませんね。

松村基子

★ミサゴ L = 54 ~ 64 Cm

タカ目ミサゴ科

ほぼ全世界に分布し、日本では留鳥として、全国に分布する。主に海岸に生息するが、内陸部の湖沼、広い河川、河口にも生息する。食性は、肉食性で魚を主に食べるが、爬虫類、鳥類、貝類を食べることもある。魚を見つけると素早く翼を羽ばたかせて、空中に静止するホバリング飛行をしたのち急降下し、捕らえる。

又捕えた魚を岩のくぼみに貯蔵して不漁の時に食べる習性があり、発酵して寿司となるみさご寿司は、現在の寿司の起源ともいわれ、全国的に「みさご寿司」という屋号を持つ寿司屋は多い。

★出典 Wikipedia



ミサゴ

せきれい 通刊 110 号

発行日 2019年10月1日(秋号) (年4回発行)

発行所 宝塚野鳥の会事務局

〒665-0046 宝塚市福井町26-14 片山 忠方

編集 せきれい編集委員会

ホームページ <http://yachou-takarazuka.life.cocan.jp/>

【無断禁転載】